

## 西濃母親連絡会 大垣市に 子育て、健診等市民生活に関わる要望書提出

西濃母親連絡会は大垣市に対して子育てや健診など市民生活に関わる要望を提出していましたが、2月2日、かがやきライフ推進部長の出席のもと、男女共同参画・まちづくり推進・環境衛生・生活安全・福祉・保健・市民病院等関係部局と懇談を行いました。出席したのは母親連絡会の奥田会長をはじめ7人でした。今回は懇談内容の一部を報告します。

大垣市議会議員 笹田 トヨ子

### 市民病院 路線バスの乗り入れを

高齢者にとって気軽に買い物や通院できるのは切実な願いです。しかし、市民病院の場合、路線バスのバス停から市民病院玄関まで地下道の階段を下りたり登ったり、高齢者や病弱者にとっては大変な作業です。「病院内にバス停を作って」「小さなバスでよいから大垣駅から市民病院までコミュニティバスを走らせて」など要望が出ました。これに対して、「市民病院への乗り入れは道幅が狭いこと、バス停をつくる敷地がないなどで難しい」という答弁でした。

現在、路線バスは赤字になっており、大垣市は毎年5000万円以上の補助を行い、また養老鉄道にも3億円の補助を行っています。どちらにしても多くの市民が利用することで存続させていくしかありません。そのためには使いがっのの良い公共交通にしていけることが大切です。超高齢化社会で高齢者など「交通弱者の足」を確保することは重要課題です。以前、「ハリンコ号」というワンコイン



バスを走らせたことがあります。2年間でやめてしまいました。路線バスや養老鉄道と連動させたコミュニティバスなど市民のニーズにあったきめ細かな交通政策が必要です。市民参加による大垣市の公共交通について検討する時期に来ているのではないのでしょうか。

### 地区センター ふらっと立ち寄って子ども を遊ばせる場所に

地区センターについて「児童館的な位置づけがされているが、予約なしにふらっと立ち寄って子どもと遊べる場所になっていない。雨の日は子どもを連れて行く場所がなくて困っている。」と出席者から出されました。これについて「中川地区センターにふれあい広場をつくり、ここではいつ来ても自由に遊べるし、飲食も可能にした。他に子育て総合支援センターや江東地区センターでは自由に遊べる場所がある。その他の地区センターでは施設的に限界はあるが、スペースがあれば検討したい」というものでした。

又、親子リズムで利用している人から「会場使用料と暖房費で1回につき3000円で毎月12000円かかる。会場使用料が大きな負担になっている」と出されました。こ

れについては「地区センターは指定管理者制度で管理料を出して地域の団体に運営を委託している。地区センター運営費の中から使用料の減免は難しい」との答弁。

地区センターでの子育て支援には施設的限界はあるが、ゆとりスペースがあれば自由に遊べる広場

をつくっていく意向が示された点は評価できます。現在、大垣市は地区センターで「子育てサロン」を開設し「子育ての相談や仲間づくり」を進めていますが、「子育て日本一」のまちづくりの最終目的は、子育て世代自身で自主的に子どもをあそばせる活動が市内あちこちでできることではないでしょうか。行政の責任は児童館などで子どもたちが自由に遊び活動する環境を整えることと思います。



### 駐輪場の有料化 せめて高校生は無料に

「高校生の駐車料金を無料に」という要望については、市は、「駐輪場の利用台数は3500台、そのうち6割は学生で、高校生割引を行っているのだからこれ以上は難しい。また、無料化することで民間の事業者の経営を圧迫することになる」というものでした。参加者からは「高校生の中にはアルバイトで稼いだお金を交通費や昼食代に充てている。駐車料金の新たな出費は昼食代を圧迫することになる」と。

6割の学生すべてではないにしても、厳しい経済状況を反映して高校生の生活を圧迫している実態はあり、何とかしなければならない状況があります。